

[学年・学校経営]

子どもたちの夢を育てるドリカムプラン - 「つなげる」キャリア教育を視点として -

國元 慶子*

1 問題の所在

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(2011)である。すなわちキャリア教育は、全ての教育活動を通して実践されるものであり、キャリア教育を通して育成する力は、「生きる力」と言い換えることができる。

国立教育政策研究所生徒指導センターは、「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」(2009)の中で、低・中・高学年の発達課題を以下のように記している。「低学年」①小学校に適應する。②身の回りの事象への関心をもつ。③自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する。「中学年」①協力して活動するなかでかかわりを深める。②自分の持ち味を発揮し、役割を自覚する。「高学年」①自分の役割や責任を果たし、役にたつ喜びを体得する。②集団の中で自己を生かす。③社会と自己とのかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる。これらの発達課題を考え、それぞれのつながりを意識しながら取り組むことにより、キャリア教育のねらいとするところに迫ることができる。さらに限定された領域、特に社会科や総合的な学習だけでなく学校教育全体を通して行ったり、小学校でのキャリア教育が中学校で生かされ接続したりすることにより、9カ年を通したキャリア教育の成果が出ると考える。

また、新潟県は、「新潟っ子キャリア教育プラン」(2009)をもとに、全教育活動をキャリア教育視点で自校化し、計画化し、実践することを提唱している。そして、そこには、郷土愛を含めた5つの力の育成を明示している。

一方、キャリア教育の場が社会そのものであるため、地域との連携は欠かすことができない。平成24年より上越市では全市一斉にコミュニティスクールが実施された。当校は、直江津東中学校区学園運営協議会(以下直東学園とする)の1校として取り組んでいる。直東学園では、キャリア教育を支えることを共通の課題として取り上げ、キャリア教育推進のために全面的に協力している。子どもたちが生きる社会である地域において、多くの人とのかかわり、経験を重ねることで、自分の生き方を考えるようなキャリア教育を行っていく。

当校は、全校57名の小規模校である。学校課題として、自己肯定感の低さがあり、力はあるも人前で発表したり、自己判断で行動したりすることができない児童が多かった。そこで、平成26年度より、「自分のよさを発見し、自信をもって行動する子」を重点目標に据え、「自尊感情を育てるドリカムプラン」として子どもたちの夢や志を育てる学校経営を行ってきた。ドリカムプランとは、キャリア教育を中核とし、子どもたちの自尊感情を高め、夢をもって生きぬく力を培うための戦略であり、カリキュラム編成のみならず、学校教育全体で行うプランである。

本研究では、キャリア教育をベースとしたドリカムプランを実践し、子どもたちの自尊感情を高め、夢をもって生きる力の育成を目指したい。

2 研究の目的

児童が、希望をもって自分の力で考えながら、自分の夢に向かって生きていくためには、「生きぬく力」と自分の存在を大切に思う「自尊感情」を身に付けることが大切である。そのためには、学校生活のなかでキャリア教育を中核とし、育成すべき資質・能力を明確にして、カリキュラムを作成し、実践していくことが求められる。児童の発達段階を踏まえ、中学校までの9カ年を見通した小中の連携、地域との連携、教科・総合的な学習とのつながりを意識したプランづくりとその実践を行う。また、その成果をキャリア教育の視点と自己肯定感の視点から見ていく。そのうえで、夢や志を育てる小学校でのキャリア教育のあり方について論考する。

* 上越市立北諏訪小学校

直東学園キャリアプランを受け、北諏訪小学校の「もとの・ひと・こと」に着目し、子どもたちに育てたい資質・能力を確認しながら、実践を具体化しマトリックスに示す作業を行い、自校化・具体化を試みた。教科・領域を付箋で色分けした。生活科・総合的な学習が中心になるものの、教科や学校行事、日頃の帰りの会、道徳など、まさに、教育活動全体で行われること、ひとつの活動がいくつかの力を育成することにつながることを確認できた。地域との関わりが多さ、課題対応能力育成に関する活動が少ないこと、授業という枠で育つ力もあることを確認できた。

そのマトリックス表をもとに、※視覚的カリキュラムを見直した。また、視覚的カリキュラムに入り込まない日常的な活動は、学級経営案に盛り込むこととした。

※上越市教育委員会考案による教科、道徳、総合、特別活動等の関連を視覚的に分かりやすく示したカリキュラム

学年	1年	2年	3年	4年
あい 他者への気遣い 親土愛				
ひと 人間関係形成能力 社会形成能力 かわる力				
じぶん 自己理解 自己管理能力				
いきる 課題対応能力				

図2 キャリア教育マトリックス表

(3) 地域・家庭とつなぐ（直東学園による支援）

直東学園は、平成27年度の経営方針のなかで、「一人ひとりが個人として自立しながらも、お互いの存在の価値を認め合い、助け合いながら、未来を担う人を育てます」という目指す子ども像を設定した。さらに重点目標として「キャリア教育を中核とした小中一貫教育を推進することを掲げ、その具体的な実践の方策として、小中連続したキャリア教育のカリキュラム編成やキャリア教育支援活動を青少年育成会議に依頼することを決定した。これを受け、第1回学園運営協議会では、当校のグランドデザインをもとに、どのような支援が必要か、地域で何ができるかを話し合った。

4 実践の概要

(1) 実践1 高学年における総合的な学習「発見 ステキな自分」から

高学年になり、子どもたちは自分の役割を強く自覚するようになった。しかし、課題を見付け、自分なりの方法で解決していこうという意識や態度は十分に育っているとは言えないのが実態である。また、高学年になり、もっと大人に近づきたいと考えたり、自分の得意な分野が見えてきたりするところだが、将来の夢をもち、それに向かって頑張ろうとしている子はあまりいない。それ以前に、自分のよさを言えない子や得意分野の認識が薄い子の方が多く、自分自身への気付きや自己有用感が低いことが気になっている。

そこで、高学年としての自覚をもち、児童会行事を軸に全校を力強くリードする経験や、そのために必要な計画立案や準備の機会を積み上げていく。さらに「働く」をテーマに展開する様々な活動から、自分を見つめ直し、自分が他の人たちの役に立つ存在であること、今までとは違う友達のよさに気付くことに重点を置いた。

① わたしにもできるかな？～職場体験に挑戦か～(6月)

それぞれの生き方について考えた児童は、自分のやってみよう職業を経験することとした。子どもの好きなM子は保育園で、生き物にとっても興味のあるY男は水族館で、人好き社交性があるS児はスーパーで職場体験をした。17名の児童がそれぞれの希望で、5つの事業所や保育園で職場体験が可能になった。直東学園のコーディネータが担任の希望を聞き、事業所を回り職場体験を依頼、承諾を取り付けた。職場体験後、それぞれが自分の気づきをポスターセッションで交流した。

② 自分の「得意」「好き」を生かした仕事に取り組もう(12月)

学校生活を振り返り、校内でできる仕事を考えて取り組んだ。「体を動かすことが好き」



図3 高学年一日職場体験



図4 イメージキャラクター「さくらもっち」

「小さい子のお世話が好き」「集会を企画するのが得意」「絵やデザインが得意」など同じ興味をもつ仲間が集まりチームを作る。デザインチームは、北諏訪小学校イメージキャラクターづくりを進めた。「北諏訪らしさ、桜の学校である北諏訪小のいいところを表現したい」という願いからイメージキャラクター「さくらもっち」が誕生した。「さくらもっち」だけでなく、キーホルダー、コースター、シュシュ、マグネット、お守りなど、「さくらもっちキャラクター」作成にも挑戦した。

力仕事が好きなおチームは、日頃お世話になっている用務員さんの仕事を手伝いたいという願いをもった。学校のためにと校庭の木の冬囲いを手伝った。自分の得意なこと、自分のアイデアを生かすことでやりがいのある活動となった。



図5 学校のために冬囲いをする子ども

(2) 実践2 ほかほか遠足

ほかほか遠足は、児童の豊かな心育成を目的とした全校縦割り遠足である。恒例の行事であるが、昨年度より、課題対応能力、自己理解・キャリアプランニング能力に視点を当て見直した。すなわち、遠足コースを選択制にし、縦割り班ごとに話し合いからコース決定を行う。さらに、ほかほか遠足後にシェアリングの場を設定した。「ほかほかカード」の交換である。「ほかほかカード」には、ほかほか遠足で見つけた仲間のよさを全員に向けて書く。役割を果たしていたこと、グループに貢献したこと、自分のやさしさが相手に伝わったこと、グループで力を合わせて歩いた達成感を言葉にし、伝え合うことで、自己理解を図ることができた。

(3) 実践3 夢・チャレ講演会

様々な分野で夢をもち、活躍している人々から体験に基づく、貴重な講話や演奏を聞くことにより、自己の生き方を考え、よりよく生きようとする気持ちを育てる。夢や志をもち、チャレンジしようという意欲を育てるという意味を込め「夢・チャレ講演会」と名付け、継続して行ってきた。「夢・チャレ講演会」は年間2回行い、うち一回は地元出身者に依頼した。

- | |
|---|
| A 中村吉右衛門による歌舞伎 文化庁主催「時代を担う子どもの文化芸能体験事業」H24 |
| B 毎日放送アナウンサー金山泉さんによる講演会 「夢をもって生きる」H25* |
| C フラガールのみなさんのダンスとミニ講演会 H25 |
| D JAXA(宇宙航空研究開発機構)の講師による講演会「宇宙への夢を広げて」H26 |
| E オペラ歌手によるミニコンサートH26* |
| F 誕生学講師による講演会「命の大切さ」H27* *は、北諏訪出身者 |

ここではK児(現6年生)の感想を追ってみる。

- A 「日本がこんなに素晴らしい国だとは思わなかった。お芝居だけでなく音楽もすてきだ。人間国宝の人がこんなところまで来てくれてすごい」小3
- B 「失敗を恐れず、どんどんチャレンジしようとする言葉が印象に残った。金山さんの小学校の頃の夢は野球選手でそれが野球中継のアナウンサーになった。経験したことがすべて夢につながる事が分かった。」小4
- C 「フラダンスは見たよりずっとむずかしい。震災からまだ時間が経っていないのに笑顔で踊ることができるのがすごかった。」小4
- D 「ほくがもし宇宙にかかわる仕事をする事になったら、はやぶさのような人工衛星を作って、日本初の生き物を発見したい。図鑑や本に載っていないことをいっぱい知ることができた。」小5
- E 「自分で出せない声のでているところが、相当練習しているのだなあと思った。北諏訪で生まれて、全国で活躍し



図5 オペラ歌手による夢・チャレコンサート

ているのがすごい。」小5

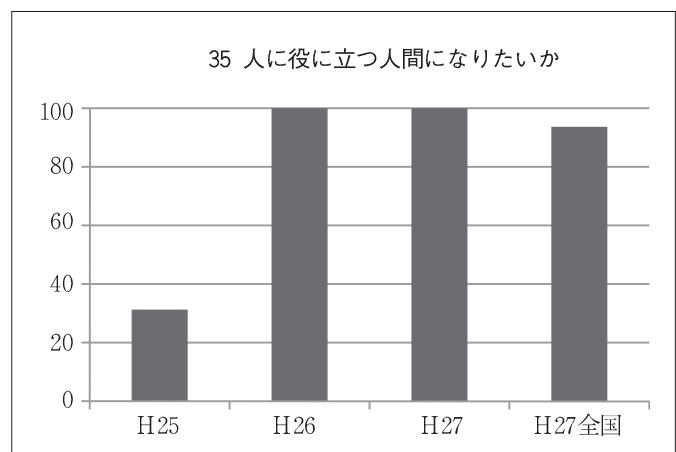
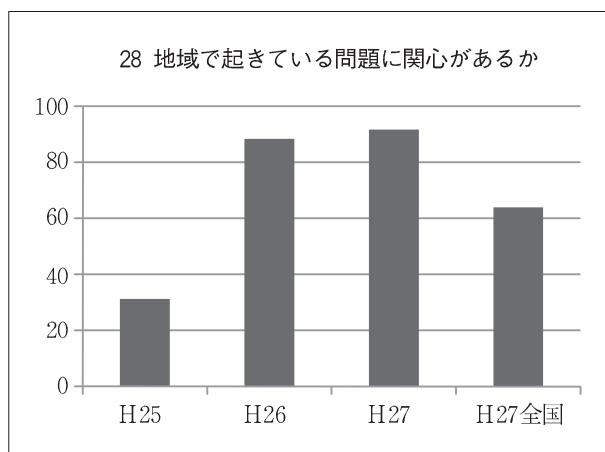
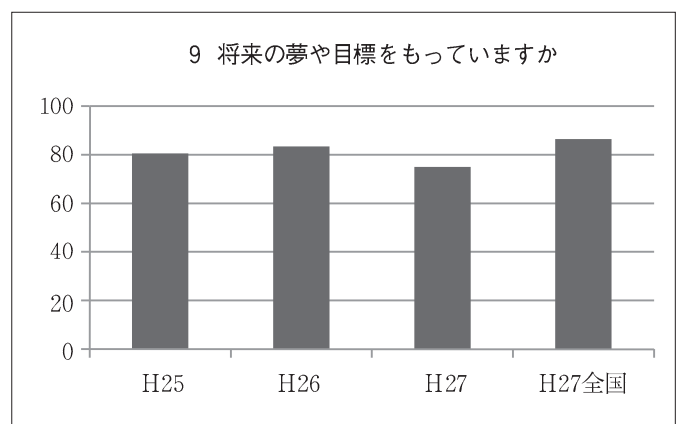
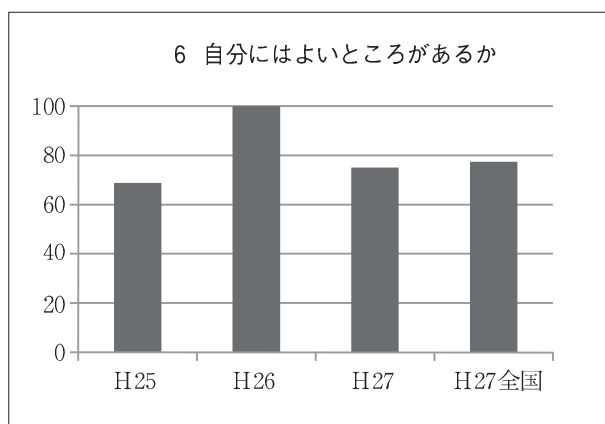
F「理科でもない保健でもない大切なことを学ぶことができた。いじめられるために生まれてきたのではないという言葉が心に残った。たやすく自分の命を無駄にしてはいけない。」小6

今振り返り、K児は次のように述べている。「いろいろな人の話を聞いてきたことが、将来のヒントになったと思う。僕の夢はどんどん変わってきている。今経験していることが将来の夢実現のためにすべて役立つと思える。今食べているものが七年後の体になるのと同じことだ。」多様な生き方に触れ、多様な考えに至っている。回の積み重ねの大切さを実感する意見である。

5 研究の成果

(1) 全国学力・学習状況結果から

ドリカムプランで設定した5つの力に関連する項目において、肯定的評価の比率を比較した。過去3年間の肯定的評価と平成27年度の全国平均との比較から考察する。



全国平均を下回っていた自尊感情に関する項目4は、年々よくなってきた。また、地域への関心が平成26年度より高まっており、全国平均を大きく上回っている。地域をフィールドとした体験活動、郷土愛をねらいとしたキャリア教育の成果が見られる。さらに、役立つ人間になりたいと願う児童が100%であることは特筆すべきことである。キャリアプランニング能力育成を意識し、発達段階に応じ、係活動、委員会活動、縦割り班活動など、自分の役割を果たすことや仲間とのやりとりで役立つ自分を自覚する場の設定が功を奏したと考える。

キャリア教育の中核としたドリカムプランの実践を通して、関わり自己を見つめながら、自分に自信をもち、社会と積極的に関わろうとしていると受け止める。とりわけ、地域に対して関心をもち、何をすべきか考える児童が育っていると考える。一方で将来の夢に関する項目は、全国平均を若干下回っており、横ばい状態である。将来の夢や目標という視点で自分を見つめる活動を行うことで、自分の将来に目を向ける児童が多くなると考える。次年度のカリキュラムに位置づけたい。

(2) つなぐカリキュラムについて

9カ年での育ちの道を共通理解したうえで、それぞれ実践レベルで考えることができた。カリキュラムについては、5つの能力について考えたところ、キャリアプランニング能力を育てる場が小学校においては、少ないことも確認できた。どの力をどこでつけるのか意識したうえで教育活動をすることで、方法も異なってくる。また、日々の活動の積み重ねが力になることを直東学園キャリアプランニングに位置づけ、明示する必要がある。

(3) 夢・志を高めるドリカムプラン

自尊感情を高めるといふ共通の目標は、意識できた。自己決定感の高まりは、それぞれの課題解決に向かう意欲の高まりにつながると考えられる。また、「夢・チャレ講演会」を継続して行うことにより、児童が将来について考える時、自分の特性についても考え合わせながら、考えることができるようになった。職場経験だけではなく、一流に秀でた人の話には、共通点がある。それは、自分をしっかり見つけ、自分のあり方を考えていること。どんな仕事も人との和が必要であることとし、関わる力が重要であることを児童がとらえている。



図6 地域の指導者による茶道体験

(4) 地域とつなぐキャリア教育について

一日職場体験の事業所の交渉だけでなく、5年生のマスコミ見学、宿泊体験活動など、直東学園の支援のもと、学校間の連携も可能になった。直江津東中学校で行われる立志式には、各町内会長がバッジを与え、地域が子どもたちの成長を見守り、成長を喜ぶ姿勢を示している。当校でも、様々な本物体験を可能にしているのは、直東学園があるからである。地域とつなぐだけでなく、地域が動くキャリア教育へと成熟してきている。また、地域で育てたい子ども像だけでなく、育てたい資質・能力を共有し、学校と地域がキャリア教育という場で協働できる体制ができたことも成果と言える。

7 今後の課題

北諏訪小学校のイメージキャラクター「さくらもち」は、本年度いろいろな形で広がっている。全校での桜餅「さくらもち」づくりにもチャレンジしている。低学年が桜の葉の塩漬け、中学年は小豆、高学年は餅米づくりを行い、桜餅を作る予定である。地域の皆さんがお菓子づくりの職人を紹介してくれている。保護者のTシャツづくりや地域のおまつりのチラシにも「さくらもち」が登場する。昨年度、キャラクターづくりに取り組んだ児童は、「さくらもち」の活躍を大いに喜んでいることであろう。自信を深めたことであろう。また、「さくらもち」を仲介に、職員のアイディア、地域のアイディアが集結し、活動となって広がっている。「つなげる」をキーワードとしたキャリア教育の実践を通して、児童は地域との関わり、地域に親しむことができた。「夢を育てるドリカムプラン」により自己肯定感を指標とした自尊感情の高まりもあった。

この成果を受け、今後の課題として、2点あげたい。一つ目は評価である。今回は、児童の自己評価をもとに成果を見てきたが、客観的な評価は行われていない。児童の意識は高まったものの、資質・能力がどう高まったのかどうかについては、もっと客観的な分析方法が必要である。そして、その成果を地域と共有し、高まるためにさらに手を携えていくことが今後の課題と言える。二つ目は、カリキュラム編成についてである。9カ年を見通したキャリア教育のカリキュラムは今後継続して行い、中学校区としてその成果を明らかにしていく必要がある。教師は、転勤があり地域に根ざすことができない。問題意識が継続し、カリキュラムが改善されていくには、地域がもっと主体となり、地域の願いをもとに実践を重ねていくことが必要となる。学校と地域がキャリア教育を理解し、育てたい子ども像を共有したうえで、学校生活や授業と地域の人々との活動がつながるような実践のあり方を検討していく。

8 引用・参考文献

1. 中央教育審議会答申「今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(2011)
2. 国立教育政策研究所生徒指導センター「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」(2009)
3. 新潟県教育委員会「新潟っ子をはぐくむキャリア教育のすすめ」(2011)